

「超高速ネットワークを利用したアジア遠隔医療プロジェクト」TEMDEC (Telemedicine Development Center of Asia)活動報告：第8巻

清水, 周次
九州大学病院

中島, 直樹
九州大学病院

<https://doi.org/10.15017/24622>

出版情報：「超高速ネットワークを利用したアジア遠隔医療プロジェクト」 TEMDEC活動報告. 8, 2012-03. TEMDEC事務局
バージョン：
権利関係：

2) 写真レポート

#254 国立大学病院連携テレカンファレンス

2011.4.27.

<p>【イベント名】 国立大学病院連携テレカンファレンス</p>	<p>【概要】 2010年度に新装されたアジア遠隔医療開発センターで行なわれた初のイベント。全国42の国立大学病院のうち33大学病院が参加する国立大学病院国際医療連携WG第3回会合をVidyoを用いて開催した。九大病院を含めて14の拠点大学病院が良好な条件でテレビ会議を行うことができた。13の他大学参加者のシステムに対する評価も高く、再度活用したいとの声が多く寄せられた。</p>
<p>【期日】 2011.4.27</p>	
<p>【会場】 北海道大学病院, 東北大学病院, 群馬大学病院, 東京大学病院, 新潟大学病院, 名古屋大学病院, 三重大学病院, 大阪大学病院, 鳥取大学病院, 愛媛大学病院, 九州大学病院, 熊本大学病院, 大分大学病院, 鹿児島大学病院 (全て日本)</p>	<p>新装TEMDECで参加した九大病院国際医療連携室メンバー。 撮影場所：九州大学病院</p>
	<p>2画面構成で、13の大学病院とVidyoで会議を行なった。 撮影場所：九州大学病院</p>
	
<p>14のステーションをVidyoで操る事に奮闘する安徳助教。 撮影場所：九州大学病院</p>	<p>東北大学も震災後の大変な中、参加した(右モニタ中央)。 撮影場所：九州大学病院</p>
	
<p>愛媛大学の榎本先生からのコメント。 撮影場所：九州大学病院</p>	<p>九大の吉良医療連携センター長からの閉会の挨拶。 撮影場所：九州大学病院</p>

#255 TERENA ネットワークカンファレンス

2011.5.19.

<p>【イベント名】 TERENA ネットワークカンファレンス</p>	<p>【概要】 プラハで開催されたTERENAミーティングにおいて、ヨーロッパで初めてのDVTS-Plusによる接続を試みた。最終的に10か所の接続となったが、DVTSの操作や基本的なネットワークの調整が十分でない施設もあり、最高の状態まで持っていくことはできなかった。またDVTS-Plus自体の操作性にもまだ改善すべき問題点が指摘され、さらなる改良が望まれた。</p>
<p>【期日】 2011.5.19</p>	
<p>【会場】 クラリオン コンgress ホテル、ケープタウン大学、上海 CTEC、マラヤ大学、アジア消化器研究所、マサリック病院、浙江大学、清華大学、フィリピン大学マニラ校、九州大学病院</p>	
	
<p>TERENAのデモンストレーション会場。</p>	<p>九州大学病院からの手術に関するプレゼンテーション。</p>
<p>撮影場所：クラリオン コンgress ホテル</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>
	
<p>九州大学病院の遠隔会議室に集まる参加者たち。</p>	<p>中国・清華大学のバオ教授（右）とMr Wang WC。</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>
	
<p>10か所のサムネール画像とチェコのマサリック病院（右）。</p>	<p>チェコのテレビ番組へ生出演の清水医師（左）。</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>

#256 医工連携 4 年生講義

2011.5.24.

<p>【イベント名】 医工連携 4 年生講義</p> <p>【期日】 2011.5.24</p> <p>【会場】 九州大学病院（日本） 藤田保健衛生大学病院（日本）</p>	<p>【概要】</p> <p>医学部医学科と生命科学科の 4 年生を対象とした医工連携の講義で、藤田保健衛生大学の杉谷教授による遠隔講義を行った。移植医療の実際やそれに関わる生と死の問題を学ぶと同時に、実際の先端的遠隔医療システムを体験した。またこの共同講義を通し双方の学生は気軽に意見を交換し、良い刺激となった。</p>
 <p>医工連携の講義を担当する清水准教授。</p> <p>撮影場所：九州大学病院</p>	 <p>藤田保健衛生大学から講義をする杉谷教授とその学生。</p> <p>撮影場所：九州大学病院</p>
 <p>講義室全体の様子。</p> <p>撮影場所：九州大学病院</p>	 <p>講義を受ける九州大学の学生。</p> <p>撮影場所：九州大学病院</p>
 <p>講義を受ける 2 3 名の学生。</p> <p>撮影場所：九州大学病院</p>	 <p>移植手術の様子が画面に映る。</p> <p>撮影場所：九州大学病院</p>

#257 医学生へのライブ中継講義

2011.6.21.

<p>【イベント名】 医学生へのライブ中継講義</p>	<p>【概要】 医学部2年生へのライブ手術の講義も今年で4回目となった。韓国からの映像配信により、内視鏡手術の特徴や遠隔医療システムの実際を学ぶことに加え、韓国側へ英語で直接質問することにより、国際的なコミュニケーションの重要性を認識させることが主な目的である。アンケートの結果からも、学生には非常に興味深い講義であることがわかる。</p>
<p>【期日】 2011.6.21</p>	
<p>【会場】 九州大学病院 (日本), ソウル大学ブندان病院 (韓国)</p>	
	
<p>韓国から配信される内視鏡手術の映像。</p>	<p>約80名の学生が集まった講義室全体の様子。</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>
	
<p>韓国側へ質問する学生 (中央)。</p>	<p>韓国側で優しく解説をしてくれるHan教授。</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>
	
<p>モニターにはソウル大学病院の手術室が映る。</p>	<p>機器のコントロールをするMinhさん。</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>

#258 マレーシア マラヤ大学とのカンファレンス

2011.6.22.

<p>【イベント名】 マレーシア マラヤ大学とのカンファレンス</p> <p>【期日】 2011.6.22</p> <p>【会場】 九州大学病院 (日本), マラヤ大学 (マレーシア)</p>	<p>【概要】 Dr Chanの研修報告のプレゼンテーションに合わせ、マラヤ大学と接続してカンファレンスを行った。マラヤ大学のシステムの状況もかなり向上していたが、動画配信のためにはさらなる調整が必要である。またこれに引き続き、看護師同士の内視鏡カンファレンスが行われ、相互に質問をし合う形で会が進められた。新鮮かつ有意義な会となり、次回開催が期待される。</p>
	
<p>テレカンファレンス室に参加したスタッフ一同。</p> <p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>プレゼンテーションを行う Dr Chan WK。</p> <p>撮影場所：九州大学病院</p>
	
<p>右画面にはマラヤ大学側のスタッフが映る。</p> <p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>前面には2つのスクリーンが並ぶ。</p> <p>撮影場所：九州大学病院</p>
	
<p>看護師の会を進める江田師長（左）と竹内看護師。</p> <p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>九大からの質問に答えるマラヤ大学の看護師ら。</p> <p>撮影場所：九州大学病院</p>

#259 建国大学内視鏡ワークショップ

2011.7.9.

<p>【イベント名】 建国大学内視鏡ワークショップ</p>	<p>【概要】 開学80周年を記念して、ソウルの建国大学で超音波内視鏡ワークショップが開催された。京都第2赤十字病院からは録画ビデオによる症例提示がなされ、会場に集まった多くの参加者との間に議論が交わされた。ワークショップでは日本以外にも、中国、台湾、シンガポール、アメリカなどからもライブデモンストレーションが行われ、教育価値の高い国際色豊かなプログラムとなった。</p>
<p>【期日】 2011.7.9</p>	
<p>【会場】 建国大学病院（韓国）、 京都第二赤十字病院（日本）</p>	
	
<p>京都から症例提示を行う安田医師。</p>	<p>スクリーンには超音波内視鏡像が映し出されている。</p>
<p>撮影場所：建国大学病院</p>	<p>撮影場所：建国大学病院</p>
	
<p>セッションの座長である韓国のDr Kimと中国のDr Xie。</p>	<p>挨拶を行う主宰者の建国大学病院 Shim CS教授。</p>
<p>撮影場所：建国大学病院</p>	<p>撮影場所：建国大学病院</p>
	
<p>会場には多くの参加者が集まった。</p>	<p>ネットワークや映像音声の調整を行うエンジニア。</p>
<p>撮影場所：建国大学病院</p>	<p>撮影場所：建国大学病院</p>

#260 第4回北京協和大学との早期胃がんカンファレンス

2011.7.20.

<p>【イベント名】 第4回北京協和大学との早期胃がんカンファレンス</p>	<p>【概要】 日中の第4回早期胃癌テレカンファレンスが行われた。今回復旦大学中山病院が初めて上海から参加したが、映像や音声の状態は良好であった。会の開始と同時に九大病院からの音声を送信できなくなり、30分ほど進行が中断したことは非常に残念であった。また北京からの内視鏡および病理画像の色彩について、さらに良好な画質が欲しいとの要望が日本側から出された。</p>
<p>【期日】 2011.7.20</p>	
<p>【会場】 北京協和医院 (中国), 九州大学病院 (日本), 復旦大学中山病院 (中国), APAN 東京オフィス (日本)</p>	
	
<p>座長を務める北京協和医科大学の Lu 教授。</p>	<p>上海からは復旦大学中山病院が初めて参加。</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>
	
<p>講演する福岡大学筑紫病院の八尾建史准教授。</p>	<p>拡大内視鏡の画像が鮮明に映し出されている。</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>
	
<p>病理診断もこの会の重要なテーマ。</p>	<p>東京からは順天堂大学のチームが参加。(右下)</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>

#261 第1回膵臓外科ネットカンファ

2011.8.1.

<p>【イベント名】 第1回膵臓外科ネットカンファ</p> <p>【期日】2011.8.1</p> <p>【会場】北海道大学病院（日本）， ジョンソン&ジョンソン MIT（日本）， 京都大学（日本）， 九州大学病院（日本）</p>	<p>【概要】 膵臓外科の専門家が集まる第1回のテレカンファレンスが、札幌、東京、京都、福岡の4地点を結んで行われた。初めての会で東京会場では一時音声のトラブルがあったが、綺麗な画像を見ながらカジュアルな中にも教育に富む活発な議論がなされ、非常に満足の内容であった。今後の定期的な開催が約束されて会が終了した。</p>
	
<p>モニターに映し出された4地点の様子。</p> <p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>主に手術動画像を用いて議論が行われた。</p> <p>撮影場所：九州大学病院</p>
	
<p>九州大学で座長を務めるDr中村（中央）。</p> <p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>北海道大学からコメントを行うDr平野。</p> <p>撮影場所：九州大学病院</p>
	
<p>京都大学病院外科の医局員一同。中央左がDr高折。</p> <p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>綺麗な画像で提示される北海道大学からの症例。</p> <p>撮影場所：九州大学病院</p>

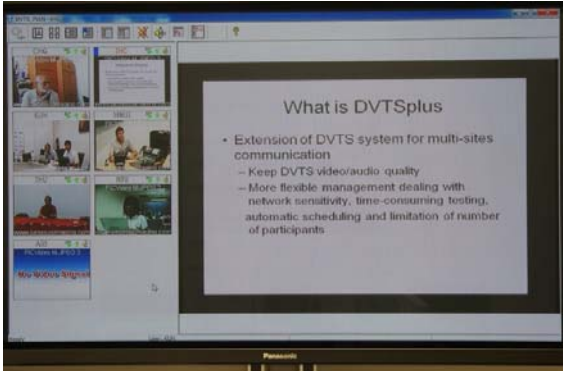



#262 第9回医療技術部グランドラウンド

2011.8.8.

<p>【イベント名】 第9回医療技術部グランドラウンド</p> <p>【期日】2011.8.8</p> <p>【会場】九州大学病院（日本）、 九州大学病院別府病院（日本）</p>	<p>【概要】 当院医療技術部で定期的に行っているグランドラウンドを当院別府病院で勤務する医療技術部員も参加できるように、H.323互換TV会議システムを利用して接続した。両施設合わせて143名（本院115名、別府28名）の参加があった。今後もこの取り組みを継続していく予定である。</p>
	
<p>開会の挨拶を行う禰占教育研修小委員会委員長。</p> <p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>本院会場には115名の参加者があった。</p> <p>撮影場所：九州大学病院</p>
	
<p>大屋医療技術部長も講演に出席した。（右）</p> <p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>別府病院会場には28名の参加者があった。</p> <p>撮影場所：九州大学病院別府病院</p>
	
<p>別府病院会場でもきれいなスライドが表示された。</p> <p>撮影場所：九州大学病院別府病院</p>	<p>司会を務めたグランドラウンドWG長 辰見技師（右）。</p> <p>撮影場所：九州大学病院</p>

#263 第 32 回 APAN 会議 DVTS plus

2011.8.24.

<p>【イベント名】 第 32 回 APAN 会議 DVTS plus</p> <p>【期日】 2011.8.24</p> <p>【会場】 インド ハビタット センター (インド), 清華大学 (中国), 九州大学病院 (日本), 国立台湾 大学 (台湾), Masaryk Hospital Usti nad Labem (チェコ), CESNET (チェコ), アジア消化器センタ ー (インド)</p>	<p>【概要】</p> <p>インドのデリーで開催されたAPAN会議のDVTS-Plusのセッション。これまでのDVTS-Plusを使用した経験を元に、さらに改良されたプログラムを使用しての遠隔会議が行われた。今回は経験豊かな地点からの参加ばかりで、接続状況も良く、活発な意見が交わされ大変有意義なセッションとなった。次回は複数のサーバーを使った接続が試される予定である。</p>
	
<p>座長のAPAN-JP北村さん (左) とCERNETのBao教授。 撮影場所： APAN 会場 (インド・ハビタットセンター)</p>	<p>Bao教授によるプレゼンテーション画面。 撮影場所：九州大学病院</p>
	
<p>CESNETのJiriさんなど、接続地点を映すDVTS-Plus画面。 撮影場所：九州大学病院</p>	<p>インドから参加のアジア消化器病センターSatyaさん。 撮影場所： APAN 会場 (インド・ハビタットセンター)</p>
	
<p>九大病院から意見を述べるMinhさん (左)。 撮影場所：九州大学病院</p>	<p>Weicaiさんなど (右) 技術担当のエンジニアチーム。 撮影場所： APAN 会場 (インド・ハビタットセンター)</p>

#264 第32回 APAN 会議 テクノロジー

2011.8.25.

<p>【イベント名】 第32回 APAN 会議 テクノロジー</p>	<p>【概要】 HDストリーミング映像とTV会議システムを組み合わせ</p>
<p>【期日】 2011.8.25</p>	<p>たHD-SCR (High Definition Streaming Combined</p>
<p>【会場】 インド ハビタット センター (インド), 九州大学病院 (日本), Advanced Science and Technology Institute (フィリピン), 香港大学 (中国), 福岡大学病院 (日本), NASATI オフィス (ベトナム), 国立台湾大学 (台湾), Korea Institute of Science and Technology Information (韓国), シアトル科学財団 (アメリカ), 漢陽大学 (韓国), チョウレイ病院 (ベトナム), フィリピン大学 マニラ校 (フィリピン)</p>	<p>Remote conference system)を使った初めてのデモンストレーションを各施設のエンジニアの協力を得て行った。全12地点と接続したが、映像が乱れることなく高品質HD映像を配信することができた。併用したTele-Pointerも問題なく動作し、イベントは成功を収めた。</p>
	
<p>左：TV会議システム 右：HD映像 撮影場所：九州大学病院</p>	<p>遠隔地からのプレゼンの遅延時間は約4秒である。 撮影場所：九州大学病院</p>
	
<p>APAN会場でもきれいなHD映像を見ることができた。 撮影場所：インド ハビタット センター</p>	<p>香港でも問題なくHD映像の受信がおこなえた。 撮影場所：香港大学</p>
	
<p>マニラでも良好な画質でHD受信が行えた。 撮影場所：フィリピン大学 マニラ校</p>	<p>迷路を使ったTele-Pointerのデモンストレーション。 撮影場所：九州大学病院</p>

#265 第32回 APAN 会議 内視鏡

2011.8.25.

<p>【イベント名】 第32回 APAN 会議 内視鏡</p>	<p>【概要】 インドから行われた最初の内視鏡テレカンファレンスとなった。韓国のDr Seoが企画し、デリー主会場のSarin教授とMehta医師と共に会を進行した。初参加のバルセロナWIDER内視鏡センターや、これまでネットワーク上問題のあったマラヤ大学、アジア消化器病センターも大変良いコンディションの中で、症例検討がなされた。次回はもっと時間が欲しいとの意見が多かった。</p>
<p>【期日】 2011.8.25</p>	
<p>【会場】 インド ハビタット センター (インド), アジア消化器センター (インド), マラヤ大学 (マレーシア), 京都第二赤十字病院 (日本), 国立台湾大学 (台湾), 建国大学病院 (韓国), バルセロナ世界消化器内視鏡センター (スペイン)</p>	
	
<p>DVTSで7か所を接続した内視鏡のセッション。 撮影場所： APAN 会場 (インド・ハビタットセンター)</p>	<p>Sarin教授 (右) とDr Mehtaが座長を務めた。 撮影場所： APAN 会場 (インド・ハビタットセンター)</p>
	
<p>マラヤ大学の接続も、今回は大変良かった。 撮影場所： APAN 会場 (インド・ハビタットセンター)</p>	<p>インドのハイデラバードからはDr Reddyが参加。 撮影場所： APAN 会場 (インド・ハビタットセンター)</p>
	
<p>バルセロナのWIDER内視鏡センターが初めて参加。 撮影場所: APAN 会場 (インド・ハビタットセンター)</p>	<p>台湾国立大学からは常連のDr Wang HPが参加。 撮影場所： APAN 会場 (インド・ハビタットセンター)</p>

#266 第32回 APAN 会議 移植

2011.8.25.

<p>【イベント名】 第32回 APAN 会議 移植</p> <p>【期日】 2011.8.25</p> <p>【会場】 インド ハビタット センター (インド), ビエット ドウック 病院 (ベトナム), 藤田保健衛生大学病院 (日本)</p>	<p>【概要】 インドのニューデリー会場をベトナム・ハノイと日本・名古屋を接続し、移植医療に関するテレカンファレンスが行われた。インド会場にはChennaiからDr Rajanが駆けつけて座長を行うと共に、インドの移植医療に関して発表した。今回南アフリカのケープタウン大学も参加予定であったが、接続がうまく行かず断念した。</p>
	
<p>モニターに映し出される参加3施設の様子。 撮影場所：APAN 会場 (インド・ハビタットセンター)</p>	<p>座長を務める杉谷教授 (右) とRajan教授。 撮影場所：APAN 会場 (インド・ハビタットセンター)</p>
	
<p>APAN医療セッション会場の様子。 撮影場所：APAN 会場 (インド・ハビタットセンター)</p>	<p>会場に設置されたモニター上の発表スライド。 撮影場所：APAN 会場 (インド・ハビタットセンター)</p>
	
<p>医療セッション参加者の様子。 撮影場所：APAN 会場 (インド・ハビタットセンター)</p>	<p>APANインド会場入り口に設置された看板や案内など。 撮影場所：APAN 会場 (インド・ハビタットセンター)</p>

#267 第32回 APAN 会議 外科

2011.8.26.

<p>【イベント名】 第32回 APAN 会議 外科</p>	<p>【概要】 韓国ソウル大学ブندان病院からインドの主会場を含め、腹腔鏡下大腸切除術を合計7か所と接続しライブ配信を行った。台北医科大学は今回初めて参加して、活発な議論に参加した。座長のAgarwal教授もその画質に驚き、既にネットワークが接続されている会場から程近い自分の病院でもシステムのセットアップを希望していた。</p>
<p>【期日】 2011.8.26</p>	
<p>【会場】 インド ハビタット センター (インド), ソウル大学ブندان病院 (韓国),台北医科大学 (台湾),九州大学病院 (日本), フィリピン大学 マニラ校 (フィリピン), ビエット ドゥック 病院 (ベトナム)</p>	
	
<p>ライブ手術は韓国のブندان病院から配信された。</p>	<p>座長のAgarwal教授 (左) と清水准教授。</p>
<p>撮影場所: APAN 会場 (インド・ハビタットセンター)</p>	<p>撮影場所: APAN 会場 (インド・ハビタットセンター)</p>
	
<p>ハノイ会場から参加のGiang教授とそのチーム。</p>	<p>挨拶を述べるマニラ・フィリピン大学のHilvano教授。</p>
<p>撮影場所: APAN 会場 (インド・ハビタットセンター)</p>	<p>撮影場所: APAN 会場 (インド・ハビタットセンター)</p>
	
<p>初めて参加した台北医科大学のWei外科主任。</p>	<p>ライブ手術を見学する外科セッションの参加者。</p>
<p>撮影場所: APAN 会場 (インド・ハビタットセンター)</p>	<p>撮影場所: APAN 会場 (インド・ハビタットセンター)</p>

#268 タイ ICT 遠隔講演

2011.8.29.

<p>【イベント名】 タイ ICT 遠隔講演</p> <p>【期日】 2011.8.29</p> <p>【会場】 九州大学病院 (日本), アマリ ウォーターゲート ホテル (タイ)</p>	<p>【概要】</p> <p>「次世代ネットワーク技術と医療への応用」をテーマにタイのバンコクで開かれたセミナーへ、九州大学病院から遠隔講演を行った。講演ではその通信手段についても新しい方法が試みられ、安定した環境の中で講演を行うことが出来た。今後のタイにおける遠隔医療活動に期待したい。</p>
	
<p>九州大学病院より遠隔講演を行う清水准教授。</p>	<p>タイの会場に映し出された講演スライド。</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：アマリウォーターゲートホテル</p>
	
<p>タイ主会場の参加者。</p>	<p>タイ主会場の様子。</p>
<p>撮影場所：アマリウォーターゲートホテル</p>	<p>撮影場所：アマリウォーターゲートホテル</p>
	
<p>タイのセミナーをサポートする現地エンジニア。</p>	<p>遠隔講演ように使用された機器類。</p>
<p>撮影場所：アマリウォーターゲートホテル</p>	<p>撮影場所：アマリウォーターゲートホテル</p>

#269 ナーステレカンファレンス

2011.9.2.

<p>【イベント名】 ナーステレカンファレンス</p> <p>【期日】 2011.9.2</p> <p>【会場】 九州大学病院 (日本), ロイヤルブリスベン ウイメンズ ホスピタル (オーストラリア)</p>	<p>【概要】 ロイヤルブリスベン ウイメンズ ホスピタルと接続し、双方がプレゼンテーションをする形でナーステレカンファレンスを行った。オーストラリアでは麻酔科医師が常駐し、プロポフォルで 99.9%の患者に鎮静を行っている。検査室 2 室、回復室 14 室を看護師 12 名が担当し、スコープ操作以外の業務は全て看護師が行っていることがわかった。</p>
	
<p>テレカンファレンスに参加したスタッフ一同。</p> <p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>テレカンファレンスに参加したDr Woo, Dr Rapat, Dr Nick。</p> <p>撮影場所：九州大学病院</p>
	
<p>右画面にはオーストラリア側のスタッフが映る。</p> <p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>前面には2つのスクリーンが並ぶ。</p> <p>撮影場所：九州大学病院</p>
	
<p>看護師の会を進める江田師長（中央）と竹内看護師。</p> <p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>九大からの質問に答えるオーストラリアの看護師ら。</p> <p>撮影場所：九州大学病院</p>

#270 ナーステレカンファレンス

2011.9.5.

<p>【イベント名】 ナーステレカンファレンス</p>	<p>【概要】 チュラロンコン大学と接続し、双方のプレゼンテーションで情報交換を行った。チュラロンコン大学にはラジャヴィティ病院からの看護師も参加した。鎮静には麻薬を使用し、静脈注射は看護師が行う。1患者に1名以上の看護師が必ず介助につき、内視鏡操作以外は全て看護師業務であった。</p>
<p>【期日】 2011.9.5</p>	
<p>【会場】 九州大学病院 (日本), チュラロンコン大学 (タイ)</p>	
	
<p>テレカンファレンスに参加したスタッフたち。</p>	<p>テレカンファレンスの総合司会をする清水准教授。</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>
	
<p>チュラロンコン大学側のスタッフが映る。</p>	<p>前面には2つのスクリーンが並ぶ。</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>
	
<p>看護師の会を進める江田師長（中央）と竹内看護師（左）。</p>	<p>九大からの質問に答えるチュラロンコン大学側の看護師ら。</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>

#271 バックマイ病院とのテレカンファレンス

2011.9.13.

<p>【イベント名】 バックマイ病院とのテレカンファレンス</p> <p>【期日】 2011.9.13</p> <p>【会場】 九州大学病院 (日本), バックマイ病院(ベトナム)</p>	<p>【概要】</p> <p>ベトナム・ハノイのバックマイ病院から研修に来ている Dr Dungの研修レポートのプレゼンテーションに際し、ベトナムの自分の病院を接続してテレカンファレンスを行った。ベトナム側には日本から派遣されている JICAのスタッフも参加して、今後の協力関係も含め有意義なディスカッションが行われた。</p>
	
<p>バックマイ病院に集まった参加者の皆さん。</p>	<p>九大で研修中のDr Dungがプレゼンテーションを行う。</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>
	
<p>発表スライド (左) とバックマイ側の出席者 (右)。</p>	<p>ベトナムで国際協力に努めるJICAのスタッフが参加。</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>
	
<p>バックマイ病院の教育研修担当スタッフが発言。</p>	<p>九大病院側のテレカンファレンス室の様子。</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>

#272 日韓消化管テレカンファ

2011.9.14.

<p>【イベント名】 日韓消化管テレカンファ</p>	<p>【概要】 消化管に関して日韓で開始された第1回目のテレカンファレンス。韓国建国大学のShim教授と京都第2赤十字病院の田中聖人先生が企画された。九州大学病院には福岡大学筑紫病院から八尾建史准教授を迎え、上部消化管の拡大内視鏡に関するレクチャーが行われた後に、症例検討がなされた。</p>
<p>【期日】 2011.9.14</p>	
<p>【会場】 九州大学病院 (日本), 建国大学病院 (韓国), 京都第二赤十字病院 (日本)</p>	
	
<p>モニターに映し出された3地点の様子。</p>	<p>挨拶を述べる京都第2赤十字病院の安田内科部長。</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>
	
<p>コメントを述べる福岡大学筑紫病院の八尾准教授。</p>	<p>拡大内視鏡に関するプレゼンテーションスライド。</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>
	
<p>九州大学病院テレカンファレンスルームの様子。</p>	<p>建国大学から意見を述べるLee准教授。</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>

#273 第11回福岡内視鏡手術フォーラム

2011.9.16.

<p>【イベント名】 第11回福岡内視鏡手術フォーラム</p>	<p>【概要】 手術室のナースを対象とした第11回福岡内視鏡フォーラムが福岡アクロスで開催された。約200名の参加者で会場は溢れる程であり、教育講演は内視鏡手術に対する麻酔管理に関するものであった。Q&Aセッションでも活発な意見や質問が交わされ、テレカンファレンスで接続された施設とのやり取りも盛んであった。</p>
<p>【期日】 2011.9.16</p>	
<p>【会場】 アクロス福岡 (日本), 藤元早鈴病院 (日本), 岩手医科大学 (日本), 産業医科大学 (日本)</p>	
	
<p>主会場に集まった約200名の参加者。</p>	<p>岩手、北九州、宮崎を接続したテレカンファレンス。</p>
<p>撮影場所：アクロス福岡</p>	<p>撮影場所：アクロス福岡</p>
	
<p>教育講演を行う福岡済生会病院のDr高松。</p>	<p>総司会とコメントーターの皆さん。</p>
<p>撮影場所：アクロス福岡</p>	<p>撮影場所：アクロス福岡</p>
	
<p>福岡会場から質問を行う参加者の一人。</p>	<p>Q&Aのセッションで発表後、質問に答える看護師。</p>
<p>撮影場所：アクロス福岡</p>	<p>撮影場所：アクロス福岡</p>

#274 南アフリカへの第一回目のライブ手術

2011.9.21.

<p>【イベント名】 南アフリカへの第一回目のライブ手術</p>	<p>【概要】 腹腔鏡下大腸切除のライブ手術が、南アフリカとベトナムを接続して行われた。ケープタウン大学にとっては初めてのライブ手術への参加であり、九大の大腸チームにとっても初めてのライブ手術配信であった。今回は質問やコメントが多く、3地点でのやり取りも大変活発で非常に有意義な会となった。南アフリカまでのネットワークの状況も安定していて画像も大変スムーズであった。</p>
<p>【期日】 2011.9.21</p>	
<p>【会場】 九州大学病院 (日本), ケープタウン大学 (南アフリカ), チョウレイ病院 (ベトナム)</p>	
	
<p>手術室におけるライブ手術の様子。</p>	<p>モニターに映る参加3施設の様子。</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：チョウレイ病院</p>
	
<p>ケープタウン大学のトムソン教授（中央）とスタッフ。</p>	<p>手術の解説を行うモデレータのDr当間（中央）。</p>
<p>撮影場所：ケープタウン大学病院</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>
	
<p>ライブ手術へ参加し、質問を行うベトナムチーム。</p>	<p>チョウレイ病院会場の様子。</p>
<p>撮影場所：チョウレイ病院</p>	<p>撮影場所：チョウレイ病院</p>

#275 第4回 ナーステレカンファレンス

2011.9.27.

<p>【イベント名】 第4回 ナーステレカンファレンス</p> <p>【期日】 2011.9.27</p> <p>【会場】 九州大学病院 (日本), 国立シンガポール大学 (シンガポール)</p>	<p>【概要】</p> <p>国立シンガポール大学と接続し、情報交換を行った。国立シンガポール大学では、検査室6室、看護師32名おり、1患者に3名看護師が介助につく。鎮静は99.9%行い、麻薬を使用する。静脈注射は看護師が行い麻酔科医師はいないことがわかった。また、患者は大腸洗浄液を4L内服することがわかった。</p>
	
<p>テレカンファレンス参加の看護師と清水准教授とDr Woo。</p>	<p>コメントを述べる清水准教授とDr Woo。</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>
	
<p>国立シンガポール大学のプレゼンテーション。</p>	<p>前面には2つのスクリーンが並ぶ。</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>
	
<p>質問する竹内看護師（左）と江田看護師長（中央）。</p>	<p>質問に答える国立シンガポール大学の看護師達。</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>

#276 インドネシア大学 との内視鏡テレカンファレンス

2011.9.30.

<p>【イベント名】 インドネシア大学 との内視鏡テレカンファレンス</p>	<p>【概要】 インドネシア大学病院から1か月間研修のために来日したDr Ayaの研修報告会を、インドネシア大学を接続して行った。インドネシア大学とは久しぶりの接続となりソフトウェアを用いたH.323接続のため画質はあまり良くなかったが、スライドの発表や今後の共同研究に関する協議については十分行うことが出来た。今後の継続的な活動が期待される。</p>
<p>【期日】 2011.9.30</p>	
<p>【会場】 九州大学病院 (日本), インドネシア大学 (インドネシア)</p>	
	
<p>インドネシア大学からDr Ayaが研修レポートを発表。 撮影場所：九州大学病院</p>	<p>インドネシア大学病院を紹介する発表スライドの一つ。 撮影場所：九州大学病院</p>
	
<p>インドネシア大学のDr Aria (左) とDr Kaka。 撮影場所：九州大学病院</p>	<p>九州大学病院でのテレカンファレンス風景。 撮影場所：九州大学病院</p>
	
<p>インドネシア大学のスタッフと意見を交わすDr Aya。 撮影場所：九州大学病院</p>	<p>2つのモニターを使ってテレカンファレンスを行った。 撮影場所：九州大学病院</p>

#277 第10回医療技術部グランドラウンド

2011.10.3.

<p>【イベント名】 第10回医療技術部グランドラウンド</p>	<p>【概要】 当院医療技術部で行っているグランドラウンドを当院別府病院で勤務する医療技術部員も参加できるように、H.323互換TV会議システムを利用して接続した。今回が2回目の取り組みで、システム準備を独自に行えるよう、医療技術部で担当スタッフを決め、一緒に作業行うことになった。両施設合わせて105名の参加があった。</p>
<p>【期日】 2011.10.3</p>	
<p>【会場】 九州大学病院（日本）、 九州大学病院別府病院（日本）</p>	
	
<p>司会進行を行う小山技師。</p>	<p>吉田技師による接遇マニュアルに関する講演。</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>
	
<p>作原技師のよる東日本大震災歯科医療救護班活動報告。</p>	<p>システム準備支援を行う梶原技師（左）。</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>
	
<p>本院会場には90名の参加者があった。</p>	<p>別府病院会場には15名の参加者があった。</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>

#278 第 20 回関東腹腔鏡下胃切除研究会

2011.10.8.

<p>【イベント名】 第 20 回関東腹腔鏡下胃切除研究会</p>	<p>【概要】 今回の関東LADG研究会は東京メイン会場と九州大学、金沢大学、それに韓国の釜山会場を接続して行われた。技師の寅田君が東京へ出向き準備を手伝ったこともあり、釜山会場は初めてでまた金沢大学も 2 回目の接続であったが、画質も良好で安定したコンディションの中、講演や議論が進められた。</p>
<p>【期日】 2011.10.8</p>	
<p>【会場】 九州大学病院 (日本), 東京医科歯科大学 (日本), 金沢大学 (日本), ロッテホテルブサン (韓国)</p>	
	
<p>モニターに映る参加 4 施設の様子。</p>	<p>東京会場の座長：Dr寺島(左)とDr小嶋。</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>
	
<p>韓国会場の様子。</p>	<p>韓国側座長のDr HK Yang (左)とDr SH Choi。</p>
<p>撮影場所：釜山ロッテホテル会場</p>	<p>撮影場所：釜山ロッテホテル会場</p>
	
<p>東京医科歯科大学会場のコントロールルーム。</p>	<p>九州大学病院で東京からの発表を見る参加者。</p>
<p>撮影場所：東京医科歯科大学</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>

#279 フェ大学病院 との内視鏡カンファレンス

2011.10.11.

<p>【イベント名】 フェ大学病院 との内視鏡カンファレンス</p>	<p>【概要】 ベトナムのフェ大学病院から来日したDr Namの研修報告会が、出身のフェ大学病院を接続して行われた。フェ大学にはちょうどテレカンファレンスシステムが導入されたばかりで初めての接続であったが、配信された画質は良好であった。ベトナム側には副学長を初め大学や病院の主要メンバーが参加し、九大側にはベトナム以外から研修中の医師が数多く参加した。</p>
<p>【期日】 2011.10.11</p>	
<p>【会場】 九州大学病院 (日本), フェ大学病院 (ベトナム)</p>	
	
<p>九州大学におけるテレカンファレンスの様子。</p>	<p>フェ大学病院側の参加主要メンバー。</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>
	
<p>九州大学における研修について発表するDr Nam。</p>	<p>テレカンファレンスには2つのモニターが使われた。</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>
	
<p>マレーシアのDr Chan(左)とベトナムのDr Tung。</p>	<p>その他、フィリピン、中国、タイからの研修生も参加。</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>







#280 108 陸軍中央病院とのテレカンファレンス

2011.10.26.

<p>【イベント名】 108 陸軍中央病院とのテレカンファレンス</p>	<p>【概要】 ベトナム（ハノイ）の108病院から研修に来ているDr Tungの帰国前のプレゼンテーションを、その108病院を</p>
<p>【期日】 2011.10.26</p>	<p>接続して行った。九大側には他の国からの医師も参加</p>
<p>【会場】 九州大学病院（日本）、 108 陸軍中央病院（ベトナム）</p>	<p>し、またベトナム側にも多くの内視鏡部門のスタッフが参加した。研修中に学んだことや日越での違い、また滞在中の文化交流などについて発表し意見を交わした。</p>
	
<p>挨拶を行う108病院のKhien医師。</p>	<p>九州大学側の参加者の様子。</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>
	
<p>108病院から参加するKhien医師とそのスタッフ。</p>	<p>九州大学病院のテレカンファレンス室の様子。</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>
	
<p>スライドを使って発表を行う108病院のTung医師（左）。</p>	<p>タイのDr Wisit（右）とマレーシアのDr Chan。</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>

#282 マレーシアとのテレカンファレンス

2011.10.27.

<p>【イベント名】 マレーシアとのテレカンファレンス</p>	<p>【概要】 マレーシアから研修に来た2名のドクターのプレゼンテーションを、マレーシアの3病院を接続して行った。マラヤ大学のGoh教授と同時に、彼らの国立大学病院系列のトップであるDr Jayaramも迎え活発な意見交換が行われた。サバ大学は2回目、クアタンのHTAA病院は初めて接続された。</p>
<p>【期日】 2011.10.27</p>	
<p>【会場】九州大学病院（日本）、マラヤ大学（マレーシア）、マレーシアサバ大学（マレーシア）、クワンタンHTAA 病院（マレーシア）</p>	
	
<p>Goh KL教授（左から2人目）とそのチーム。</p>	<p>発表を行うマレーシアから研修中のTee医師。</p>
<p>撮影場所：マラヤ大学</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>
	
<p>発表を行うマレーシアから研修中のChan医師（中央）。</p>	<p>モニターには接続された4地点の様子が映る。</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>
	
<p>スライド用とテレカンファレンス用の2つのモニター。</p>	<p>九州大学病院でのテレカンファレンスの様子。</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>

#283 第 14 回 韓国消化器内視鏡外科研究会

2011.10.29.

<p>【イベント名】 第 14 回 韓国消化器内視鏡外科研究会</p> <p>【期日】 2011.10.29</p> <p>【会場】 九州大学病院 (日本), ソウル大学ブندان病院 (韓国), 全南大学 (韓国), 韓国がんセンター (韓国), カトリック大学ソウルセントメリー病院 (韓国)</p>	<p>【概要】</p> <p>韓国のソウルで行われた腹腔鏡胃切除の研究会に、九大から遠隔で参加した。臨床・腫瘍外科の永井准教授がビデオを使ってプレゼンテーションを行った。すべてソウル大学ブندان病院のリードで準備されたが、4 地点からの DVTS による手術映像に加え、ポリコムを使ってコミュニケーションが行われた。映像も綺麗で活発な議論が交わされた。</p>
	
<p>討論する Dr 永井 (中央)、Dr 当間 (左)、Dr 清水。</p> <p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>韓国会場のメインスクリーンに映る手術映像。</p> <p>撮影場所：九州大学病院</p>
	
<p>4 地点から送られてくる内視鏡手術の DVTS 画像。</p> <p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>接続された 4 地点の様子がポリコム経由で描出される。</p> <p>撮影場所：九州大学病院</p>
	
<p>コメントを述べる Dr 大内田 (中央)。</p> <p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>九州大学病院の 2 つのモニターに映る手術画像。</p> <p>撮影場所：九州大学病院</p>

#284 Spy Glass テレカンファレンス

2011.11.1.

<p>【イベント名】 Spy Glass テレカンファレンス</p>	<p>【概要】 新しい内視鏡機器であるSpyGlassに関するテレカンファレンスが行われた。京都第二赤十字病院のDr田中のリードにより、東京大学のDr 伊佐山のチームが初めて参加し、岐阜大学も久しぶりの参加となった。カジュアルな会で多くの質問や意見が出され、終始和やかな雰囲気で行進した。次回以降の開催を約束して会は終了した。</p>
<p>【期日】 2011.11.1</p>	
<p>【会場】 九州大学病院 (日本), 東京大学医学部附属病院 (日本), 京都第二赤十字病院 (日本), 岐阜大学 (日本)</p>	
	
<p>座長のDr大塚 (左) と発表を行ったDr永吉 (中央)</p>	<p>モニターには発表スライドが映る。</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>
	
<p>東京大学でテクニカルなサポートを担当するDr田中。</p>	<p>モニターに映し出された参加4地点の様子。</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>
	
<p>九州大学病院のテレカンファレンス室の様子。</p>	<p>発表スライドの一部。</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>

#285 第5回北京協和大学との早期胃がんカンファレンス

2011.11.15.

<p>【イベント名】 第5回北京協和大学との早期胃がんカンファレンス</p> <p>【期日】2011.11.15</p> <p>【会場】九州大学病院（日本）、 北京協和医院（中国）、 復旦大学中山病院（中国）、 APAN 東京オフィス（日本）</p>	<p>【概要】 第5回目の日本・中国間での早期胃癌カンファレンスが行われた。北京・上海・東京・福岡を結んで行われるこの会の最大の特徴は、インターネットを通して伝送される内視鏡像と病理画像が各症例について関連付けて討議される点である。今回は東京の八尾隆史教授によるわかりやすい病理に関する講演があり、その後症例検討が行われた。</p>
	
<p>挨拶を交わす各地点の様子がモニターに映る。</p>	<p>復旦大学中山病院の会場の様子。</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：復旦大学中山病院</p>
	
<p>東京からコメントを述べる順天堂大学の八尾隆史教授。</p>	<p>北京協和医科大学病院の会場の様子。</p>
<p>撮影場所：東京 APAN オフィス</p>	<p>撮影場所：北京協和医科大学病院</p>
	
<p>福岡大学Dr八尾（中央）とモロッコのDr Sake（右）。</p>	<p>4地点で共有する病理画像を映す右画面モニター。</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>

#286 学生テレカンファレンス

2011.12.2.

<p>【イベント名】 学生テレカンファレンス</p>	<p>【概要】 九州大学医学部6年の永田君の発案で、藤田保健衛生大学との間で、学生同士による遠隔症例検討会が企画された。</p>
<p>【期日】 2011.12.2</p>	<p>藤田保健衛生大学側で準備された症例について、診断を類推し治療方針を立てるという流れで行われ、最後に吉岡教授の解説で締めくくられた。非常に新鮮で有意義な会となった。次回は多地点または海外との接続を企画したい。</p>
<p>【会場】 九州大学病院（日本）、 藤田保健衛生大学病院（日本）</p>	
	
<p>藤田保健衛生大学での会場の様子。</p>	<p>ホワイトボードを使って説明する学生。</p>
<p>撮影場所：藤田保健衛生大学病院</p>	<p>撮影場所：藤田保健衛生大学病院</p>
	
<p>九州大学病院側に集まった学生たちー1。</p>	<p>九州大学病院側に集まった学生たちー2。</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>
	
<p>九州大学病院での会場の様子。</p>	<p>症例について解説をされる吉岡教授。</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：藤田保健衛生大学病院</p>

#287 第2回日韓消化器テレカンファレンス

2011.12.8.

<p>【イベント名】 第2回日韓消化器テレカンファレンス</p> <p>【期日】2011.12.8</p> <p>【会場】九州大学病院（日本）、 建国大学病院（韓国）、 京都第二赤十字病院（日本）</p>	<p>【概要】 第2回目の日韓消化器テレカンファレンスが、3施設を接続して行われた。今回は特別ゲストとして大阪府立成人病センターのDr上堂の参加があり、「萎縮性胃炎および胃癌に対する画像強調による内視鏡検査」という講演をお願いした。九大では海外からの研修中のドクターも参加し、状に有意義な会となった。</p>
	
<p>九大では海外からの研修中のドクターも参加した。</p>	<p>建国大学のShim教授（左）とLee SY准教授。</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：建国大学病院</p>
	
<p>九大からは福岡大学筑紫病院の八尾准教授が参加。</p>	<p>京都会場のDr安田（左）と大阪成人病センターのDr上堂。</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>
	
<p>モニターに映った3会場の様子。</p>	<p>講演中の内視鏡画像がモニターに映し出される。</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>

#288 WGO テレカンファレンス

2011.12.13.

<p>【イベント名】 WGO テレカンファレンス</p>	<p>【概要】 Dr Sakeが研修を終えてモロッコに帰ったことを契機とし、世界消化器病学会(WGO)の認定センターであるケープタウン大学(UCT)を交えて、テレカンファレンスを行った。Dr Sakeの九大における研修報告に続き、Prof ThomsonがWGOにおける今後のテレコミュニケーションの活用に関する発表を行った。</p>
<p>【期日】 2011.12.13</p>	
<p>【会場】 九州大学病院 (日本), モハメット5世スイシ大学 (モロッコ), ケープタウン大学 (南アフリカ)</p>	
	
<p>ケープタウン大学のProf Thomson (左)とDr Shawn。</p>	<p>モロッコ・モハメド5世大学のProf Naimaとそのスタッフ。</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>
	
<p>右側のモニターにはDr Sakeの発表資料が提示されている。</p>	<p>WGOトレーニングセンターについてのスライド。</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>
	
<p>九大会場のMr Hu (手前)と清水医師。</p>	<p>モニターに映し出される3会場の様子。</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>

#289 MYREN 医療セミナー

2011.12.14

<p>【イベント名】 MYREN 医療セミナー</p>	<p>【概要】 マレーシアの学術ネットワーク (MYREN) とマラヤ大学の主催で、遠隔医療に関するワークショップがクアラルンプールで開催された。Dr Salemの企画により、九大からの遠隔講演に引き続き、医療、ローカルエンジニア、ネットワークエンジニア、それぞれの立場からの発表が行われた。今後のマレーシアでの遠隔医療活動の発展に寄与するものと期待される。</p>
<p>【期日】 2011.12.14</p>	
<p>【会場】 九州大学病院 (日本), マラヤ大学 (マレーシア), National University of Malaysia (マレーシア), Malaysia Research Education Network ネットワーク オペレーションセンター (マレーシア)</p>	
	
<p>マレーシア会場全体の様子。</p>	<p>MYRENのKamal (中央)とUniv MalayaのDr Ho (右)。</p>
<p>撮影場所：マラヤ大学病院</p>	<p>撮影場所：マラヤ大学病院</p>
	
<p>九大から遠隔講演を行う清水医師。</p>	<p>4会場の様子が、モニターに映し出されている。</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>
	
<p>会場でワークショップの進行を務めるDr Salem。</p>	<p>九大会場に準備された2つのモニター。</p>
<p>撮影場所：マラヤ大学病院</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>

#290 第5回アジア遠隔医療シンポジウム-1

2011.12.16.

<p>【イベント名】 第5回アジア遠隔医療シンポジウム-1</p>	<p>【概要】 第5回アジア遠隔医療シンポジウムが、九州大学創立百周年記念事業の一環として、九大病院で開催された。今回は1日目の会場として、初めて百年講堂の大ホールを使用した。またポスターセッションや機器の展示も初めての企画となったが、来年以降も継続したい内容であった。副学長や病院長などの来賓を迎え、17か国から120名を超える参加者が集まり、南アフリカからの遠隔発表も行われた。会終了後の懇親会を含め、多くの情報交換がなされた。</p>
<p>【期日】 2011.12.16</p>	
<p>【会場】 九州大学病院 (日本), ケープタウン大学 (南アフリカ), マラヤ大学 (マレーシア), フィジー国立大学 (フィジー) シアトル科学財団 (アメリカ), 清華大学 (中国), 肝胆道科学センター (インド), アジア消化器センター (インド), バンドン工科大学 (インドネシア), フィジー国立大学 (フィジー)</p>	
	
<p>祝辞を述べられる久保千春病院長。</p>	<p>大きなスクリーンに映し出される発表の様子。</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>
	
<p>メイン会場となった百年講堂大ホールの全体像。</p>	<p>休憩時間にホールでくつろぐ参加者たち。</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>
	
<p>企業からの展示も、今回初めての企画となった。</p>	<p>懇親会の席で挨拶をするベトナムからの出席者ら。</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>

#291 第5回アジア遠隔医療シンポジウム-2

2011.12.16.

<p>【イベント名】 第5回アジア遠隔医療シンポジウム-2</p>	<p>【概要】 シンポジウムの2日目はコラボレーションセンターで行われ、主に技術的な内容が議論された。早朝のシアトルからのデモンストレーションに続き、インドやフィジー、中国、マレーシア、インドネシアなどからの遠隔参加もあった。1日目の特別講演は遠隔診療に関する香川大学とブリスベン大学からの発表であったが、2日目は慶応大学の杉浦先生に「DVTSのアップデート」に関する講演をお願いした。</p>
<p>【期日】 2011.12.16</p>	
<p>【会場】九州大学病院 (日本), ケープタウン大学 (南アフリカ), マラヤ大学 (マレーシア), フィジー国立大学 (フィジー) シアトル科学財団 (アメリカ), 清華大学 (中国), 肝胆道科学センター (インド), アジア消化器センター (インド), バンドン工科大学 (インドネシア), フィジー国立大学 (フィジー)</p>	
	
<p>シアトル科学財団からのデモンストレーション。</p>	<p>コラボレーションセンターで発表を聞く参加者ら。</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>
	
<p>インドから遠隔で参加するAIGのSatya氏。</p>	<p>座長を務めるJunghun Lee (左) と工藤さん。</p>
<p>撮影場所：アジア消化器センター (インド・ハイデラバード)</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>
	
<p>2日目の昼食会場の様子。Dr池野 (左) とMr Chiang。</p>	<p>夜の懇親会の席。話が大いに盛り上がった。</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>

#292 学生遠隔講義

2012.1.11.

<p>【イベント名】 学生遠隔講義</p> <p>【期日】 2012.1.11</p> <p>【会場】 九州大学病院（日本）， 九州大学 伊都キャンパス（日本）</p>	<p>【概要】</p> <p>全学部の1-2年生を対象として、伊都キャンパスで行われている「情報学I：ネット時代の情報センス」の講義に対し、一つの事例という位置付けで、病院地区から遠隔医療に関する講義が行われた。大学の各キャンパスを繋ぐiClassというシステムが初めて使われたが、講義もコミュニケーションもスムーズに行われた。</p>
	
<p>各講義室の様子やスライドが画面に映されている。</p> <p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>清水医師による病院地区からの遠隔講義の様子。</p> <p>撮影場所：九州大学病院</p>
	
<p>遠隔講義を聞く伊都キャンパスの学生たち。</p> <p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>病院地区の講師へ質問する学生。</p> <p>撮影場所：九州大学病院</p>
	
<p>病院地区講義室の様子。</p> <p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>機器を操作する清水医師。</p> <p>撮影場所：九州大学病院</p>

#293 北京記念ライブ

2012.1.12.

<p>【イベント名】 北京記念ライブ</p>	<p>【概要】 北京のトレーニングセンターで行われた記念式典において、ソウル・東京・福岡を結んで、ライブ手術のデモンストレーションが行われた。北京のこの会場への接続は初めてであったが、画質や通信状況も良く、大変満足度の高い会となった。今後このセンターを中心として、中国での外科系コンテンツの増加が期待されている。</p>
<p>【期日】 2012.1.12</p>	
<p>【会場】 九州大学病院 (日本), ジョンソン&ジョンソン 北京 (中国), ソウル大学ブندان病院 (韓国), ジョンソン&ジョンソン MIT (日本)</p>	
	
<p>3つのモニターが準備された北京メイン会場の様子。</p>	<p>北京会場に集まった参加者たち。</p>
<p>撮影場所：J&J 北京トレーニングセンター</p>	<p>撮影場所：J&J 北京トレーニングセンター</p>
	
<p>接続された4地点が画面に映し出されている。</p>	<p>東京会場の様子。</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：J&J 東京トレーニングセンター</p>
	
<p>左から、Dr Ha, Dr仲田、Dr Wisit。</p>	<p>九大会場では2つのモニターに画像が映し出される。</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>

#295 第33回 APAN 会議 内視鏡 1

2012.2.14.

<p>【イベント名】 第33回 APAN 会議 内視鏡 1</p>	<p>【概要】 今回の内視鏡ライブセッションは、バンコクで行われていたタイ消化器内視鏡学会とシンクロナイズする形で企画された。チュラロンコン大学病院で行われる手技を、チェンマイのAPAN会場およびその他6か所の接続地点と共有した。会を重ねるに連れ音声・映像の状態が全体的には良くなる一方、接続地点によってはネットワークの状況が時に乱れることもあった。</p>
<p>【期日】 2012.2.14</p>	
<p>【会場】 エンプレス コンベンションセンター (タイ), クイーンシリキット ナショナルコンベンションセンター (タイ), アサン医療センター (韓国), マラヤ大学 (マレーシア), 108 陸軍中央病院 (ベトナム), チョウレイ病院 (ベトナム), 建国大学病院 (韓国), チュラロンコン大学 (タイ)</p>	
	
<p>チェンマイのAPAN主会場。 撮影場所： エンプレス コンベンションセンター</p>	<p>バンコクの学会会場で座長を務めるDr Rungsunが映る。 撮影場所：エンプレス コンベンションセンター</p>
	
<p>韓国ソウルの建国大学病院から参加するスタッフ。 撮影場所： 建国大学病院</p>	<p>マラヤ大学の内視鏡室に集まるDr Gohとそのチーム。 撮影場所：マラヤ大学</p>
	
<p>ハノイ108病院のDr Khienとそのチーム。 撮影場所： 108 陸軍中央病院</p>	<p>ホーチミンのチョウレイ病院に集まった参加者。 撮影場所： チョウレイ病院</p>

#296 第33回 APAN 会議 内視鏡 2

2012.2.14.

<p>【イベント名】 第33回 APAN 会議 内視鏡 2</p>	<p>【概要】 内視鏡2のセッションでは症例検討が行われた。それぞれの地点から症例提示が行われ、それに対して質問やコメントが出された。インド・ニューデリーの肝胆道科学センターは初めての参加であったが、接続の状態は非常に良かった。また同じくインドのアジア消化器センターやバルセロナの世界消化器内視鏡センターもネットワークの状況が良く、今度の継続的な活動が期待される。</p>
<p>【期日】 2012.2.14</p>	
<p>【会場】 エンプレス コンベンションセンター (タイ), アジア消化器センター (インド), アサン医療センター (韓国), 国立台湾大学 (台湾), 香港中文大学 (中国), 肝胆道科学センター (インド), バルセロナ世界消化器内視鏡センター (スペイン)</p>	
	
<p>参加7施設の様子を映すモニター。</p>	<p>座長を務めるチェンマイ大学のDr Ong-Ard。</p>
<p>撮影場所： エンプレス コンベンションセンター</p>	<p>撮影場所：エンプレス コンベンションセンター</p>
	
<p>台北の国立台湾大学に集まるスタッフ。</p>	<p>香港中文大学会場の様子。</p>
<p>撮影場所：エンプレス コンベンションセンター</p>	<p>撮影場所：香港中文大学</p>
	
<p>初参加となったニューデリーのDr Sarinとそのチーム。</p>	<p>前回のAPANに続き2回目の参加となったバルセロナチーム。</p>
<p>撮影場所：肝胆道科学センター</p>	<p>撮影場所：バルセロナ世界消化器内視鏡センター</p>





#297 第33回 APAN 会議 胎児治療

2012.2.15.

<p>【イベント名】 第33回 APAN 会議 胎児治療</p>	<p>【概要】 第2回目の胎児医療に関するテレカンファレンスが行われた。接続地点は前回と同様であったが、東京の国立成育医療研究センターを除いてはすべて良好であった。前回ネットワークが不良だった香港大学でも十分調整され、大変良い状態であった。前回良好であった国立成育医療研究センターについては、再度のシステム調整を予定している。</p>
<p>【期日】2012.2.15</p>	
<p>【会場】エンプレス コンベンションセンター (タイ), マヒドン大学シリラ病院 (タイ), 国立成育医療研究センター (日本), 国立シンガポール大学 (シンガポール), 国立台湾大学 (台湾), 香港大学 (中国), 九州大学病院 (日本)</p>	
	
<p>モニターに映る接続7施設の様子。</p>	<p>座長を務める千葉医師 (右) とDr Han HS。</p>
<p>撮影場所： エンプレス コンベンションセンター</p>	<p>撮影場所：エンプレス コンベンションセンター</p>
	
<p>マヒドン大学シリラ病院に集まるスタッフ。</p>	<p>香港大学から発表を行う医師。</p>
<p>撮影場所：マヒドン大学シリラ病院</p>	<p>撮影場所：香港大学</p>
	
<p>東京の国立成育医療研究センターから参加の中村医師。</p>	<p>背面から見たシンガポール大学病院の会場。</p>
<p>撮影場所： エンプレス コンベンションセンター</p>	<p>撮影場所：国立シンガポール大学</p>

#298 第33回 APAN 会議 テクノロジー

2012.2.16.

<p>【イベント名】 第33回 APAN 会議 テクノロジー</p>	<p>【概要】 新しく導入されたVidyoシステムを用いて、デモンストレーションが行われた。香川大学で行われていたチェンマイ在住の日本人に対する健康相談の様子も紹介され、より良いシステムを用いた活動の発展が期待される。チェンマイ在住の庄司さんにも会にご参加いただき、大変満足された様子だった。今後はチェンマイ大学の協力を得て、この活動をさらに前進させたい。</p>
<p>【期日】 2012.2.16</p>	
<p>【会場】エンプレス コンベンションセンター (タイ), 九州大学病院 (日本), Vidyo Japan (日本), NASATI オフィス (ベトナム), チョウレイ病院 (ベトナム), ビエット ドウック 病院 (ベトナム), 国立台湾大学 (台湾), フィリピン大学 マニラ校 (フィリピン), バックマイ病院 (ベトナム), 香川大学医学部附属病院 (日本)</p>	
	
<p>香川大学の横井医師とその他の接続地点。</p>	<p>座長を務める台湾大学のChiangさん (右)。</p>
<p>撮影場所: ビエット・ドウック病院</p>	<p>撮影場所: エンプレス コンベンションセンター</p>
	
<p>チェンマイに長期滞在中の庄司さん (左) が参加。</p>	<p>質問をする韓国のYS Lee教授。</p>
<p>撮影場所: エンプレス コンベンションセンター</p>	<p>撮影場所: エンプレス コンベンションセンター</p>
	
<p>接続した11施設のうちの9地点がモニターに映し出される。</p>	<p>ビエット・ドウック病院から参加のエンジニアDinh氏。</p>
<p>撮影場所: エンプレス コンベンションセンター</p>	<p>撮影場所: ビエット・ドウック病院</p>

#299 第33回 APAN 会議 心臓カテーテル

2011.2.16.

<p>【イベント名】 第33回 APAN 会議 心臓カテーテル</p> <p>【期日】2012.2.16</p> <p>【会場】エンプレス コンベンションセンター (タイ), 国立シンガポール大学 (シンガポール), 国立台湾大学 (台湾), 大阪大学医学部附属病院 (日本)</p>	<p>【概要】</p> <p>前回のテレカンファレンスに続き、APAN セッションでは初めて、心カテのライブが企画された。新しい心カテ室からのライブとなった国立台湾大学や初めて参加の大阪大学共にネットワークの状況も大変良好で、熱いディスカッションと共に会が盛り上がった。今度も是非進めていきたい分野の一つである。</p>
	
<p>接続4施設がモニターに映し出される。</p> <p>撮影場所：エンプレス コンベンションセンター</p>	<p>座長を務める池野医師（右）とタイのDamaras 教授。</p> <p>撮影場所：エンプレス コンベンションセンター</p>
	
<p>国立台湾大学からライブを行う Dr Kao。</p> <p>撮影場所：エンプレス コンベンションセンター</p>	<p>初めての参加となった大阪大学の角辻准教授ら。</p> <p>撮影場所：大阪大学医学部附属病院</p>
	
<p>シンガポール大会場に集まった参加者たち。</p> <p>撮影場所：エンプレス コンベンションセンター</p>	<p>接続をサポートするエンジニアスタッフ。</p> <p>撮影場所：エンプレス コンベンションセンター</p>

#300 第33回 APAN 会議 外科

2012.2.17.

<p>【イベント名】 第33回 APAN 会議 外科</p>	<p>【概要】 HD-SCRと呼ばれるハイビジョン配信システムを用いた初めてのライブ手術が、APANの外科セッションで企画された。ソウル大学ブندان病院で行われている腹腔鏡下副腎摘出術の様子が、12か所の接続地点と共有されディスカッションが行われた。チェンマイの会場ではDr Sirikarnが座長を務め、鮮明な画像と共に、ソウルのDr ChoやハノイのDr Giangらと積極的な意見交換が行われた。</p>
<p>【期日】 2012.2.17</p>	
<p>【会場】 エンプレス コンベンションセンター (タイ), 九州大学病院 (日本), チョウレイ病院 (ベトナム), 香港大学 (中国), マヒドン大学シリラ病院 (タイ), フィリピン大学 マニラ校 (フィリピン), 国立台湾大学 (台湾), ソウル大学ブندان病院 (韓国), 上海 CTEC (中国), ビエット ドウック 病院 (ベトナム), 肝胆道科学センター (インド), バックマイ病院 (ベトナム)</p>	
	
<p>参加12施設を映し出すモニター。</p>	<p>チェンマイ主会場で座長を務めるDr Sirikarn (右) ら。</p>
<p>撮影場所： エンプレス コンベンションセンター</p>	<p>撮影場所： エンプレス コンベンションセンター</p>
	
<p>背面から見たチェンマイ主会場の様子。</p>	<p>ライブ手術の様子に見入るチョウレイ病院のスタッフ。</p>
<p>撮影場所： エンプレス コンベンションセンター</p>	<p>撮影場所： チョウレイ病院</p>
	
<p>バックマイ病院からも久々の参加。</p>	<p>ビエット・ドウック病院のDr Giangとそのチーム。</p>
<p>撮影場所： バックマイ病院</p>	<p>撮影場所： ビエット ドウック 病院</p>

#301 台湾テレカンファレンス

2012.2.21.

<p>【イベント名】 台湾テレカンファレンス</p>	<p>【概要】 台北榮民総医院のDr Changを研修に受け入れたことを契機として台湾の3施設を同時に接続したテレカンファレンスを初めて開催した。高雄医学大学は今回初めてDVTSで接続したが、久々の接続であった台北榮民総医院と共に、映像・音声とも良好であった。今後、国立台湾大学を中心とした台湾内における活動の展開が楽しみである。</p>
<p>【期日】 2012.2.21</p>	
<p>【会場】 九州大学病院（日本）、 台北榮民総医院（台湾）、 国立台湾大学（台湾）、 高雄医学大学附属中和記念病院（台湾）</p>	
	
<p>台北榮民総医院から研修中のDr Chang（左）。</p>	<p>モニターに映る4地点の様子。</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>
	
<p>九州大学病院には2つのモニターが設置されている。</p>	<p>台北榮民総医院のDr Ho（中央）とDr Yang（左）。</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>
	
<p>九州大学病院の遠隔会議室の様子。</p>	<p>Dr Changによるプレゼンテーションスライド。</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>

#302 先端内視鏡シンポジウム

2012.2.24.

<p>【イベント名】 先端内視鏡シンポジウム</p>	<p>【概要】 イギリスのカーディフで開催された先端内視鏡シンポジウムへ、九大から遠隔で参加した。イギリスとは初めての企画となったが、九大側から提示された福岡大学や大阪成人病センターの医師による症例に関して、双方から活発な議論が交わされた。これを契機として、今後イギリスとの遠隔医療活動の展開を期待したい。</p>
<p>【期日】 2012.2.24</p>	
<p>【会場】 九州大学病院 (日本), All Nations Centre, Cardiff (イギリス)</p>	
	
<p>日本側の主な参加者：左よりDr青柳、Dr八尾、Dr上堂。</p>	<p>イギリス側の座長：Dr Ragunath (右) と Dr Dolwani。</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>
	
<p>日本側遠隔医療会議室の様子。</p>	<p>Dr上堂によるプレゼンテーションの様子。</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>
	
<p>Dr八尾による拡大内視鏡のプレゼンテーションスライド。</p>	<p>会に参加した若い医師たち。</p>
<p>撮影場所：九州大学病院</p>	<p>撮影場所：九州大学病院</p>